



2024年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年9月12日

上場会社名 株式会社トップカルチャー 上場取引所 東
 コード番号 7640 URL <https://www.topculture.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 清水 大輔
 問合せ先責任者(役職名) 取締役財務部長兼管理部長 (氏名) 遠海 武則 TEL 025-232-0008
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年10月期第3四半期の連結業績(2023年11月1日~2024年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年10月期第3四半期	14,041	△3.8	△301	—	△351	—	△385	—
2023年10月期第3四半期	14,597	△9.5	△472	—	△519	—	△577	—

(注) 包括利益 2024年10月期第3四半期 △384百万円(—%) 2023年10月期第3四半期 △561百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年10月期第3四半期	△24.69	—
2023年10月期第3四半期	△47.79	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年10月期第3四半期	16,624	1,952	11.5	△13.67
2023年10月期	17,236	2,510	14.3	19.79

(参考) 自己資本 2024年10月期第3四半期 1,918百万円 2023年10月期 2,471百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年10月期	—	3.00	—	3.00	6.00
2024年10月期	—	0.00	—	—	—
2024年10月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年10月期の連結業績予想(2023年11月1日~2024年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	17,793	△6.1	△399	—	△470	—	△866	△55.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年10月期3Q	16,214,400株	2023年10月期	16,214,400株
② 期末自己株式数	2024年10月期3Q	603,480株	2023年10月期	603,480株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年10月期3Q	12,403,345株	2023年10月期3Q	12,084,520株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

(A種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期期末	第2四半期期末	第3四半期期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年10月期	—	4,000.00	—	4,000.00	8,000.00
2024年10月期	—	4,000.00	—		
2024年10月期 (予想)				4,000.00	8,000.00

(B種優先株式)

	1株当たり配当金				
	第1四半期期末	第2四半期期末	第3四半期期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年10月期	—	500.00	—	500.00	1,000.00
2024年10月期	—	500.00	—		
2024年10月期 (予想)				500.00	1,000.00

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更等)	9
(重要な後発事象)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
4. 補足情報	12
(1) 生産、受注及び販売の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の消費環境は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、人流は回復したものの物価上昇が続く中で、急速な円安の影響もあり消費行動は厳しい状況が続いております。一方で、書店の減少がメディアに取り上げられる中、今年3月に経済産業省主導で立ち上げられた書店振興のためのプロジェクトも書店経営者と意見交換するなど官民連携の取組みが本格化してきました。

このような状況のもと、今期は新たな中期経営計画(2024/10月期～2026/10月期)の初年度、「持続可能な書店創りへのチャレンジ」を経営方針として掲げ、収益性の高い店舗モデルの再構築に努めるとともに、改めて読書文化を広げることを推進しております。

昨年10月に持続可能な書店創りを実現するため、新たなパートナーとなりました株式会社トーハンの連携を強化いたしました。NFTデジタル特典付き出版物の販売や、様々なオリジナル書籍企画も展開し、読書に触れる機会を創出しております。2023年12月には、ドロップシッピングモデルのEC販売(楽天市場 トップカルチャーBOOKSTORE)を、2024年7月には楽天市場2号店及びAmazon店を開業し、計3店舗でトーハン在庫と店頭在庫を連携し、オフライン×オンラインの運用で実施、販売を拡大しております。今後もEC店舗の拡大を予定しております。また、2024年2月より開始した、トーハンが運営する書店スペースレンタルプラットフォーム「ブクマスペース」(店頭スペースをイベントなどに提供できる書店として、利用したい業者とネットでマッチングするサービス)の利用者が増加しており、様々な形で文化の空間を提供するとともに、書店×〇〇による新たな価値を提供しております。さらに、2024年問題の対策と物流の効率化を図るため、本のみ取り扱いをしていましたトーハン物流に、文具や雑貨も一緒に配送できるよう、2月から物流体制を刷新いたしました。今後も効率化を推進するとともに、当社店舗以外の書店への展開も検討しております。

また昨年から引き続き、ゲーム・トレーディングカード販売事業を28店舗でふるいちへ事業切替を完了し、ガシャポンバンダイオフィシャルショップを22店舗に導入、新たな来店機会を創出するとともに、イベントやPOPUPショップを開催し、行ってみたい!また行きたい!に繋がる体験価値も創出しております。

2024年1月には、化粧品ECサイトを運営するノイン株式会社との協業で、化粧品専門店初のフルセルフショップ「NOIN beauty」を蔦屋書店新潟万代にオープンいたしました。6月にはMORIOKA TSUTAYAにオープンし、今後も出店を拡大する予定です。前期に子会社化したタリーズコーヒーの飲食事業も売上が伸長し、シナジー効果を牽引しております。

2024年3月9日に宮城県に蔦屋書店 イオンタウン仙台泉大沢店をオープンいたしました。同店は、2013年3月16日にオープンしました蔦屋書店 仙台泉店を、大型ショッピングセンターであるイオンタウン仙台泉大沢の大規模リニューアルに合わせて、同施設内に移転オープンいたしました。同店には、ふるいちトップボックス、ガシャポンバンダイオフィシャルショップも同時オープンし、まだ全国でも展開が少ない紅茶の取り扱いも行うTULLY'S COFFEE & TEAを当社グループとして初出店いたしました。また同店ではこれまでに取り扱いのない新規商材を拡充しております。首都圏で展開する高級ブランドの食品を定番棚として設置しているほか、全国から有名な和菓子などを取り寄せたPOPUPショップも展開しており、6月以降には、既存店にも導入を拡大しております。そのほかトーハンの連携により、人気通販ショップのPOPUPショップを多数店舗で順次展開するなどにより、特撰雑貨文具の売上が大きく伸長しました。

第40期の店舗状況におきましては、神奈川県、静岡県、群馬県の3店舗を営業終了し、宮城県の1店舗が移転のため1月に営業を終了しましたが、3月に蔦屋書店 イオンタウン仙台泉大沢店として移転オープンし店舗数は55店舗となり、グループ全体の店舗数は106店舗(2024年7月31日時点)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高14,041百万円(前年同期比96.2%)、営業損失301百万円(前年同四半期 営業損失472百万円)、経常損失351百万円(前年同四半期 経常損失519百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失385百万円(前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純損失577百万円)となりました。

売上・利益の増減要因

売上面につきましては、店舗数の減少の影響等により、当社グループの軸である蔦屋書店事業全体の売上高は12,787百万円(前年同期比91.3%)となりました。

利益面につきましては、徹底したコスト管理を行い販管費の削減に努めました。一方で人件費の上昇、閉店に伴うコスト増加及び出店に伴う先行コストにより、営業損失301百万円(前年同四半期 営業損失472百万円)、経常損

失351百万円（前年同四半期 経常損失519百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失385百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失577百万円）となりました。

セグメントの状況は、次のとおりです。

① 蔦屋書店事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高12,787百万円（前年同期比91.3%）、セグメント損失は365百万円（前年同四半期 セグメント損失524百万円）となりました。

主力商品の売上高は、書籍8,099百万円（前年同期比94.2%）、特撰雑貨・文具2,332百万円（前年同期比95.9%）、レンタル540百万円（前年同期比76.5%）、賃貸不動産収入387百万円（前年同期比84.9%）、ゲーム・リサイクル180百万円（前年同期比53.1%）、販売用CD167百万円（前年同期比61.4%）、販売用DVD149百万円（前年同期比62.5%）となりました。

② ゲーム・トレーディングカード事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高290百万円（前年同期比112.0%）、セグメント損失8百万円（前年同四半期はセグメント利益5百万円）となりました。

③ スポーツ関連事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高180百万円（前年同期比104.4%）、セグメント利益0百万円（前年同期比13.8%）となりました。

④ 訪問看護事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高130百万円（前年同期比152.8%）、セグメント利益21百万円（前年同四半期 セグメント損失5百万円）となりました。

⑤ 飲食事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高841百万円（前年同期比521.6%）、セグメント利益21百万円（前年同期比351.9%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

総資産につきましては、前連結会計年度末比612百万円減少し、16,624百万円となりました。これは主に、商品が197百万円増加した一方で、現金預金が552百万円、未収入金が46百万円減少した結果、流動資産が409百万円減少し、また、建物及び構築物が79百万円、のれんが15百万円、敷金及び保証金が82百万円、それぞれ減少した結果、固定資産が202百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末比54百万円減少し、14,672百万円となりました。これは主に、買掛金が934百万円増加した一方で、一年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金が496百万円、リース債務が137百万円、その他の流動負債が314百万円それぞれ減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末比557百万円減少し、1,952百万円となりました。剰余金の配当を109百万円実施したこと、及び親会社株主に帰属する四半期純損失を385百万円計上したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年10月期の連結業績見通しにつきましては、2023年12月14日に公表いたしました数値から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,570,708	1,018,384
売掛金	351,448	444,473
商品	7,268,167	7,465,751
前払費用	255,104	253,205
未収入金	162,092	115,734
その他	109,514	10,279
貸倒引当金	△404	△404
流動資産合計	9,716,632	9,307,424
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,311,744	1,232,521
土地	1,423,310	1,423,310
リース資産(純額)	1,998,956	1,983,575
その他(純額)	61,281	73,557
有形固定資産合計	4,795,292	4,712,964
無形固定資産		
のれん	139,385	123,506
その他	17,853	16,792
無形固定資産合計	157,239	140,298
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,322,112	2,239,422
その他	245,558	224,561
投資その他の資産合計	2,567,670	2,463,983
固定資産合計	7,520,202	7,317,247
資産合計	17,236,835	16,624,671

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,688,332	3,622,769
短期借入金	4,500,000	4,500,000
1年内返済予定の長期借入金	644,676	596,242
リース債務	335,237	349,990
未払法人税等	49,390	30,123
賞与引当金	30,000	14,000
未払金	280,186	275,299
資産除去債務	5,481	769
その他	573,324	258,757
流動負債合計	9,106,629	9,647,952
固定負債		
長期借入金	2,195,680	1,748,107
リース債務	2,920,864	2,768,985
資産除去債務	180,185	184,217
長期前受収益	1,277	1,625
退職給付に係る負債	33,042	31,492
役員退職慰労引当金	62,941	62,941
長期末払金	11,689	19,811
長期預り敷金保証金	214,291	206,935
固定負債合計	5,619,972	5,024,114
負債合計	14,726,601	14,672,066
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,342,378	100,000
資本剰余金	2,045,929	4,115,474
利益剰余金	△1,643,970	△2,029,383
自己株式	△270,027	△270,027
株主資本合計	2,474,308	1,916,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,435	1,958
その他の包括利益累計額合計	△2,435	1,958
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	30,110	26,333
純資産合計	2,510,233	1,952,604
負債純資産合計	17,236,835	16,624,671

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年11月1日 至2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年11月1日 至2024年7月31日)
売上高	14,597,521	14,041,348
売上原価	10,021,364	9,307,208
売上総利益	4,576,156	4,734,139
販売費及び一般管理費	5,048,652	5,035,602
営業損失(△)	△472,495	△301,463
営業外収益		
受取利息	7,186	7,043
協賛金収入	4,302	2,569
原子力立地給付金	4,232	3,578
その他	20,676	18,627
営業外収益合計	36,397	31,819
営業外費用		
支払利息	83,549	81,725
その他	—	379
営業外費用合計	83,549	82,105
経常損失(△)	△519,647	△351,749
特別利益		
固定資産売却益	3,458	—
特別利益合計	3,458	—
特別損失		
減損損失	5,860	—
固定資産処分損	33,588	—
リース解約損	—	6,119
特別損失合計	39,448	6,119
税金等調整前四半期純損失(△)	△555,636	△357,868
法人税、住民税及び事業税	21,848	31,321
法人税等合計	21,848	31,321
四半期純損失(△)	△577,485	△389,190
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	3	△3,777
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△577,488	△385,412

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)
四半期純損失(△)	△577,485	△389,190
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,660	4,394
その他の包括利益合計	15,660	4,394
四半期包括利益	△561,824	△384,795
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△561,827	△381,018
非支配株主に係る四半期包括利益	3	△3,777

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	蔦屋書店 事業	ゲーム・ トレーディング カード事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業	飲食事業			
売上高								
外部顧客に 対する売上高	13,945,222	259,414	146,281	85,260	161,341	14,597,521	—	14,597,521
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	54,705	—	26,563	—	—	81,268	△81,268	—
計	14,025,220	259,414	172,845	85,260	136,049	14,678,790	△81,268	14,597,521
セグメント利益 又は損失(△)	△524,483	5,060	5,628	△5,228	6,041	△512,981	40,486	△472,495

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	報告セグメント					全社・消去	合計
	蔦屋書店 事業	ゲーム・ トレーディング カード事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業	飲食事業		
減損損失	5,860	—	—	—	—	—	5,860

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社メソッドカイザーを連結の範囲に含めたことに伴い、「飲食事業」に、のれん148,207千円を計上しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	蔦屋書店 事業	ゲーム・ トレーディング カード事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業	飲食事業			
売上高								
外部顧客に 対する売上高	12,623,021	290,661	155,857	130,248	841,559	14,041,348	—	14,041,348
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	164,456	—	24,663	—	—	189,120	△189,120	—
計	12,787,477	290,661	180,521	130,248	841,559	14,230,468	△189,120	14,041,348
セグメント利益 又は損失(△)	△365,262	△8,208	776	21,353	21,261	△330,079	28,616	△301,463

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)
減価償却費	363,820千円	304,236千円
のれんの償却額	3,528千円	15,879千円

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

商品別販売状況

区 分		前第3四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年7月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2023年11月1日 至 2024年7月31日)	
		売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)
蔦屋書店事業	書籍	8,601,805	58.6	8,099,365	56.9
	特撰雑貨・文具	2,430,825	16.6	2,332,266	16.4
	レンタル	706,264	4.8	540,451	3.8
	賃貸不動産収入	455,959	3.1	387,240	2.7
	ゲーム・リサイクル	339,241	2.3	180,285	1.3
	販売用CD	272,316	1.9	167,146	1.2
	販売用DVD	239,179	1.6	149,511	1.0
	その他	899,629	6.1	766,753	5.4
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	54,705	0.4	164,456	1.2
	計	13,999,927	95.4	12,787,477	89.9
ゲーム・ トレーディング カード事業	外部顧客に対する売上高	259,414	1.7	290,661	2.0
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	259,414	1.7	290,661	2.0
スポーツ関連 事業	外部顧客に対する売上高	146,281	1.0	155,857	1.1
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	26,563	0.2	24,663	0.2
	計	172,845	1.2	180,521	1.3
訪問看護事業	外部顧客に対する売上高	85,260	0.6	130,248	0.9
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	85,260	0.6	130,248	0.9
飲食事業	外部顧客に対する売上高	161,341	1.1	841,559	5.9
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—
	計	161,341	1.1	841,559	5.9
合計		14,678,790	100.0	14,230,468	100.0

(注) 1 セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

2 蔦屋書店事業の「その他」は、図書カード他であります。